

編集後記



編集長・教養学部4年

松野大河

飯舘村に初めて来てから2年半ほど。飯舘村の素晴らしい自然と迎えてくださる皆様のおかげで、今でも飯舘村を訪れるたびにわくわくしています。各行政区に様々な特色があり、それをまとめあげるのに想像以上時間を要し、自分が卒業するまで半分の10区しかご紹介できず、未練もあります。ただ、そうだよなこうだったよね、というのや、あの地域は今こんなことやってるのか、といった形で見ていただければ、編集長としてこの上ない喜びです。

私は2024年春から京都にわたり行政学や地方政治の研究をすることになります。地方自治体に関心を持ったのも、飯舘という地で農村という存在と深くかわるようになったことが大きいのです。この飯舘で学んだことを糧に、地域をどう作っていくか、住民とつながりながらも自治体や政府がどうあるべきか、そして災害が起きた場合にどう対応すべきか、そのような問題へ一つのヒントとなるような研究もできればと思っています。遠方にはなってしまいますが、今後も飯舘に足を運び続けて行きたいと思っています。引き続き温かく迎えてくださりますと幸いです。



法学部3年

高橋和希

取材活動を通じて、様々な方から個性ある行政区のお話を伺うことができたこと、大変嬉しく思います。村民の方が持つ自らの村や行政区への誇りと愛を感じ、自分自身何度も心温まりました。この冊子が、こうした村の方の「想い」、そして個性あふれる飯舘村の魅力を届ける一助となれば幸いです。



農学部内定2年

圓林悟

各行政区を記録し、地域を紹介することが行政区ずかんの目的でしたが、様々な方にお話を聞く中で私たち自身が地域について多くを学ぶ機会を持てたことを嬉しく感じています。読んでくださった方々が、私たちと同じように新鮮な驚きをもって飯舘村を見つめてくだされば幸いです。



農学部3年

橋本将

震災の影響で住人が戻っていない地区が多い中で、ある程度住民が戻っていても、高齢化やコロナにより祭りなどの伝統が危機に瀕している地区が多いように感じました。震災、高齢化、コロナなど多くの問題が複雑に絡み合った中で地域の特色を生かしながら地区の伝統を守っていこうという区長さんの気持ちがよくわかりました。



文学部4年

小関愛実

行政区長の方々からお話を伺ったことで、文献等では知り得ないような、行政区ごとの歴史や暮らしの様相を学ぶことができました。行政区によって異なる色があることがわかり、新たな視点から飯舘村を見ることができるようになったと思います。このずかんと通して多くの人に飯舘村をより深く知って頂けると嬉しいです。



農学部内定2年

森川はなの

実際に行政区長や村の方々にお話を伺うことで飯舘村に対する知識が深まりました。同時にもっと知りたいという思いも芽生え、飯舘村に足を運び続けてきました。実際に取材をしたからこそ伝えられる各行政区の昔の話や現状を少しでも鮮明に読者の皆様にお伝えできていれば幸いです。



教養学部1年

武田知士

取材・掲載を快諾してくださる方が非常に多く、その温かさが印象的でした。ひょんなご縁ではありましたが、関係者の皆様には感謝の思いでいっぱいです。今後も飯舘村で活動させていただく予定です。またどこかでお目にかかれることを楽しみにしております。